

★ コミュニケーションロボットの市場が賑やかになっています！！

1月11日午前11時1分、ソニーの新型「aibo (アイボ)」が発売されました。昨年11月1日、新商品発表会の場で平井一夫社長から告知され、その日の午後11時1分にソニーストアオンライン限定で予約が開始されました。この先行予約は約30分で完売。11月11日に行われた第2回目の先行予約も14分で完売。さらに12月20日の第3回目の先行予約も38分で完売しました。ちなみに11月1日は、犬の鳴き声が「ワンワンワン」であることから、1987年に社団法人ペットフード協会によって「犬の日」に制定されています。

aiboの本体価格は198,000円(税別)。それ以外に必ず加入しなければならないaiboベーシックプラン(初回3年契約で以後は1年更新)は、初回分一括払で90,000円(税別)、月払いで月額2,980円(税別)となります。ベーシックプランは、aiboとコミュニケーションをとるのに必要なクラウドサービスで、専用アプリや専用サーバーを介して情報をやり取りすることでaiboは成長していきます。また、加入は任意ですが、aiboの不具合や故障に備えるためのaiboケアサポートが1年契約で20,000円(税別)、3年契約で54,000円(税別)となります。aiboケアサポートを含めたフルサポートで、すべて3年契約の一括払いにしたとすると税込で369,360円。値段は張りますが、「アクチュエーター」と呼ばれる関節部の部品などのロボット技術の進化によって、本物のペットのようなしなやかで躍動感のある身のこなしとなり、高性能なカメラやセンサー、そしてクラウドとAIの連携によって飼い主との意思疎通ができるようになったとのこと。この異常な人気ぶりは、それを現実に体験したいという願望から購買意欲をかきたてられた人が多かったということでしょうか。犬種にもよりますが、餌代がかからないこと、予防接種を含めた医療費がかからないこと、そして何よりもペット不可のマンションやアパートでも飼えることを考えれば、決して高い買い物とは言えないのかもしれない。

先ごろ、国立社会保障・人口問題研究所から「日本の世帯数の将来推計」が公表されました。それによりますと、単身世帯(一人暮らし)は2026年に初めて2,000万世帯を超え、2040年には全世帯の約40%に達すると予測されています。特に65歳以上の高齢者の単身世帯は、2015年に625万世帯だったものが、2040年にはその1.43倍の896万世帯、75歳以上に至っては、337万世帯から1.52倍の512万世帯に増える見通しです。高齢の一人暮らしで特に男性の場合、一日中誰とも会話しないことはそんなに珍しいことではないかもしれません。内閣府の「平成23年度 高齢者の経済生活に関する意識調査結果」でも、高齢者の会話(電話やEメール等を含む)の頻度は、単身世帯でない世帯の場合「毎日」が90%以上ですが、単身世帯で毎日人と会話しているのは75.8%で、「2~3日に1回」が14.8%となっています。高齢者の引きこもりや孤独死といった社会問題がこの先どんどん増えることは明らかです。この問題を少しでも解決する手段として、コミュニケーションロボットを積極的に活用することが非常に有効なのではないかと感ぜずにはられません。現にシャープのロボホンやソフトバンクのペッパーなどのコミュニケーションロボットが近年続々と登場し、その市場規模も2014年度が約8億円だったものが、2020年度には約10倍の87.4億円に成長すると見込まれています。大手百貨店の高島屋では、昨年10月から新宿店に「Robotics Studio」というロボット専用の売り場をオープンさせ、今年3月には売り場面積を2倍に拡大する予定とのこと。このような動きに大いに期待したいところですが、ここで最もネックになるのはその価格面であることは間違いありません。高島屋での売れ筋は10~15万円のロボットとのことですが、グーグルホームなどのAIスピーカー並み(1~2万円)は無理としても、世の中に広く普及させるためにもせめて5万円を切る価格にしてほしいものです。

人間は一人では生きていけない動物です。孤独は時には必要かもしれませんが、誰かを支え、誰かに支えてもらって生きている喜びや充足感を感じるものです。その相手は人間や動物に限らず、仮にコミュニケーションロボットだとしても何ら変わらないように思います。

(工藤克己)